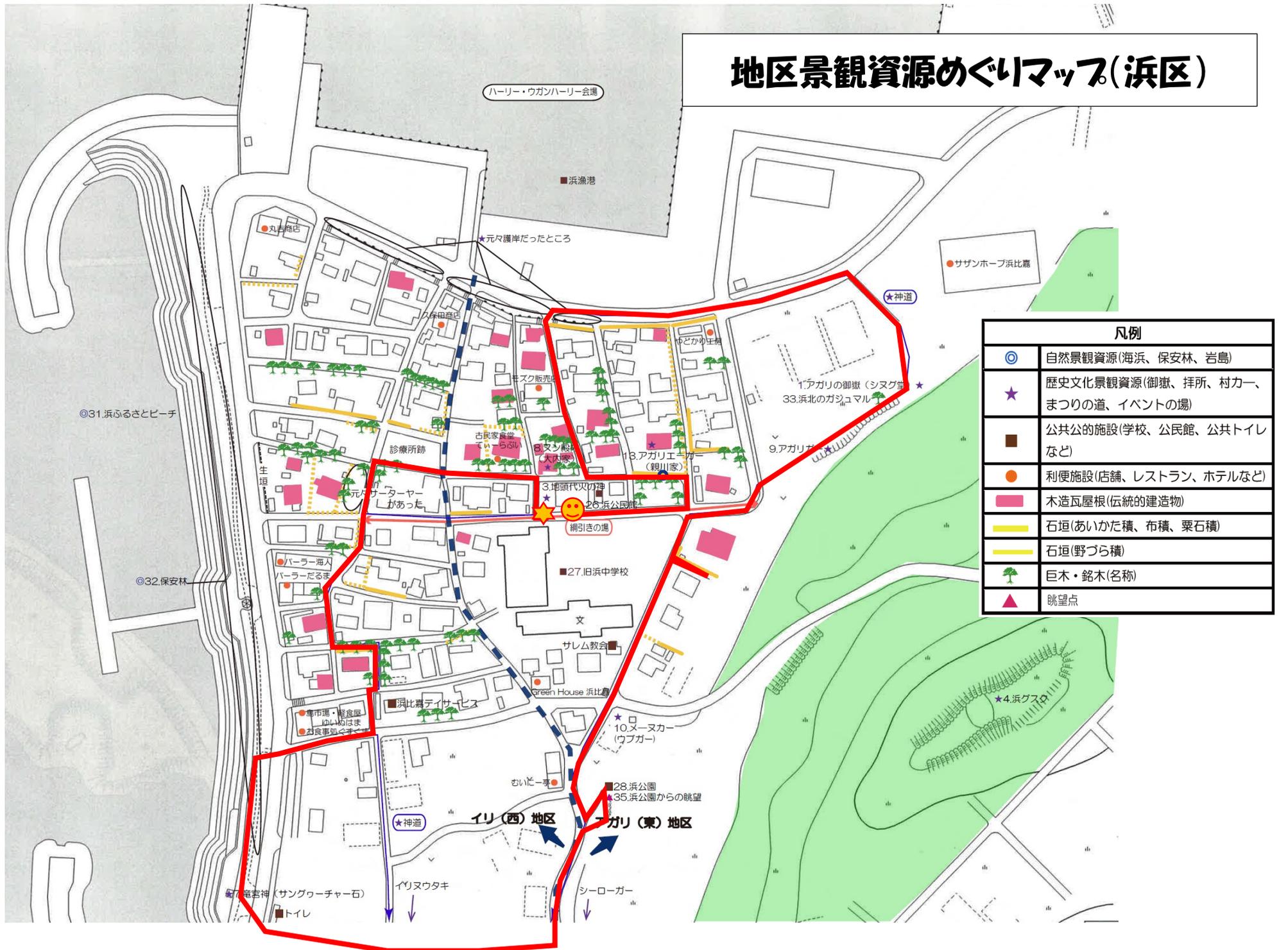


地区景観資源めぐりマップ(浜区)



凡例	
◎	自然景観資源(海浜、保安林、岩島)
☆	歴史文化景観資源(御嶽、拝所、村カ、まつりの道、イベントの場)
■	公共的施設(学校、公民館、公共トイレなど)
●	利便施設(店舗、レストラン、ホテルなど)
■	木造瓦屋根(伝統的建造物)
■	石垣(あいかた積、布積、粟石積)
■	石垣(野づら積)
■	巨木・銘木(名称)
▲	眺望点

★歴史文化景観資源(御嶽・拝所・村ガ-・まつりの場など)

No.	名称	概要
1	アガリの御嶽 (シヌグ堂)	旧暦6月と8月に海の時化を祈願する「シヌグ祭り」が行われることから「シヌグ堂」とも呼ばれている。シヌグ祭りは昔、戦に敗れた南山の平良忠臣とその仲間が浜に渡って、シヌグ堂に身を隠し難を凌いだ、という故事から始まっている。
2	ヤマトウンチュ墓 (大和人墓)	天保10年(1839)の水戸藩船が漂着した歴史を伝えている。水戸藩廻船漂着文書には、救助された水戸藩の周蔵と仙台領の宇(刈)太郎が無事帰国することができ、救助前に死亡した5人をこの地に葬ったと伝えている。
3	地頭代火の神	浜公民館敷地内にある拝所。火の神の依代として三個の霊石を祀っている。琉球王府時代、浜には地頭代のおえか地(役地)があり、「地頭代火の神」が奉安されたのはこの為とされている。今日でも、立身出世の神として、進学、旅立ちに際し祈願されている。
4	浜グスク (イリグスク)	浜集落を見下ろせる位置に築かれている。集落の北側崖部分に野面積みの石垣があり、南東の崖の面に古墓がある。グスク内は北側と南側で2メートルほどの落差があり2つの曲輪からなっている。グスク土器や陶器、須恵器などが出土している。
5	イリの御嶽(シリギチャー御嶽)	浜集落の南に位置する御嶽。旧正月の年頭拝みなどで祈願される。
6	ビジュール神	イリの御嶽内にある拝所。
7	竜宮神(サングウチャー石)	旧暦3月3日のサングウチャーに豊漁と航海安全などを祈願する拝所。埋め立て前は海岸に平たい大きな石があり、海獣のジュゴンや魚類、豚などを解体する場所であった。
8	ヌン殿内 (大内家)	琉球王府から大内家のノロ(祝女)に献上された扇がカンヤーに祀られていた。現在の扇は新しいもの。旧正月の年頭拝みなどで祈願される。
9	アガリガ-	旧正月の年頭拝みなどで祈願される。
10	メ-ヌカー (ウブガ-)	浜集落の東南端にあるウブガ-とも呼ばれる井泉。旧正月の若水や赤ちゃんの産水はこの井泉から汲んだ。亥の年に行われるウフアシビの行事では祈願が行われ踊りが奉納される。
11	シーローガ- (水道ガ-)	水量が豊富で稲作の水を引いていた。農作業の休憩地でもあった。現在はコンクリートで囲って水を貯めポンプで汲みあげて農業用水に利用している。旧正月の年頭拝みなどで祈願される。
12	ユチャガ- (せちや川)	かつて稲作にはシーローガ-の水を使用していたが、その水が足りなくなった場合はユチャガ-から水を引いていた。
13	アガリエ-ガ- (親川家)	集落の東、2班に位置する旧家。あいかた積の見事な石垣が残る。旧正月の年頭拝みなどで祈願される。
14	まつりの場	綱引きの場(公民館前の道)/ミチジュネ-の順路/ハーリーの場(浜漁港)/カミミチ(集落内)などがある。

◆公共的施設(学校・公民館・公園など)

No.	名称	概要
25	浜比嘉大橋	一般県道浜比嘉平安座線事業として実施。平成4年度に橋梁部を着工し平成8年度に供用開始された。
26	浜公民館	集落の中心に位置し、地頭代火の神に隣接して立地している。集落行事の遂行や行政との橋渡しなど集落運営全般に係る機能を担っている。
27	旧浜中学校	浜区にながらく立地していた浜中学校は、2012年4月に過疎化と市の学校適正配置計画により彩橋小中学校に統合廃止された。
28	浜公園	平成元年に農村総合整備モデル事業で整備された。公園内にはトイレやベンチがあり、戦没者慰霊の碑などがみられる。
29	旧護岸	現在の浜漁港が整備される前の護岸が残されており、当時の海岸線の位置が確認できる貴重な資源。

○自然景観資源(海浜・保安林・岩島など)

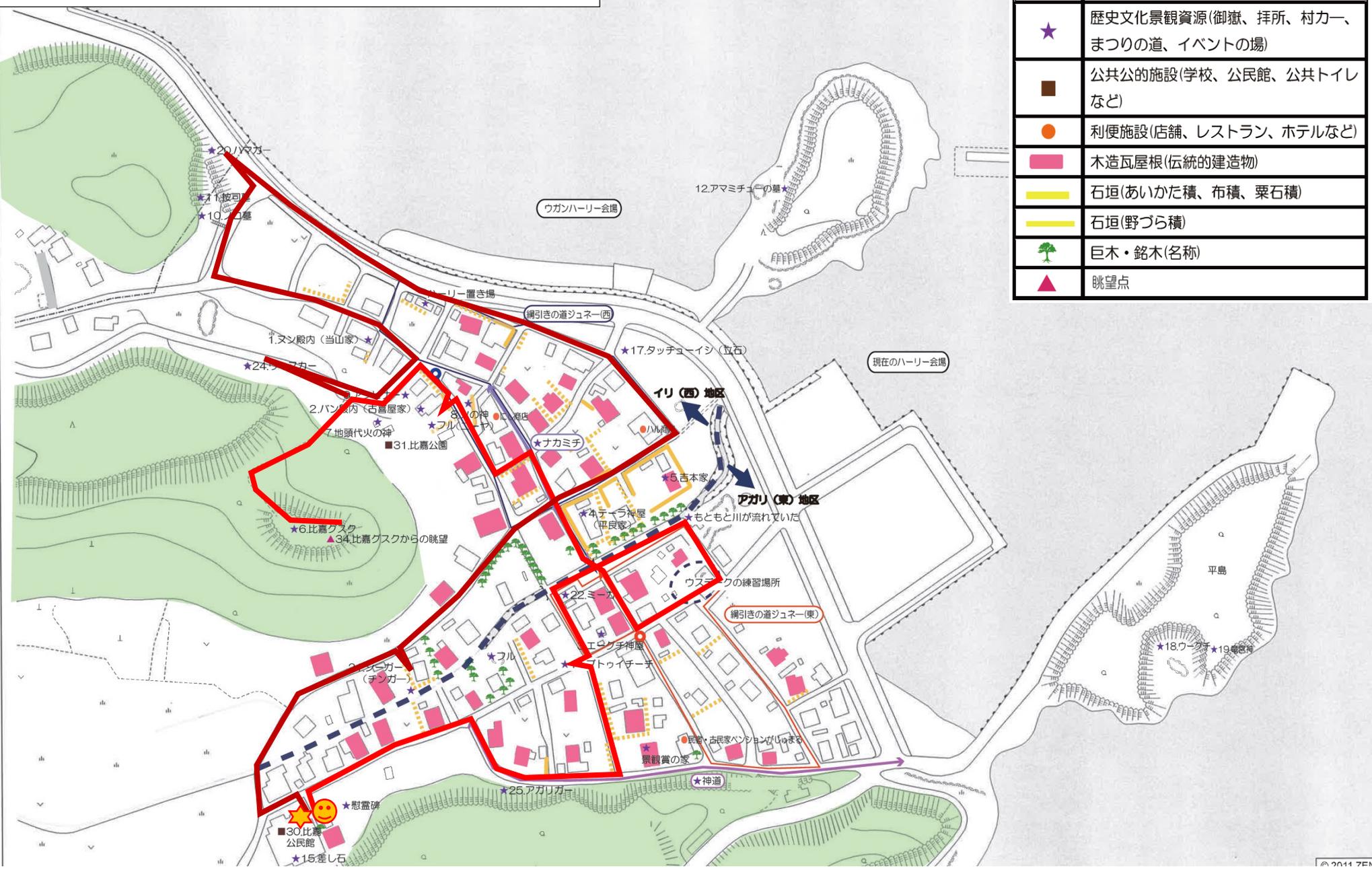
No.	名称	概要
31	浜ふるさとビーチ	ふるさと海岸整備モデル事業により整備された人工ビーチ。
32	保安林	島の要所には保安林が形成されており、厳しい自然から集落や島の暮らしを守っている。
33	浜北のガジュマル	東の御嶽(シヌグ堂)内に生育するガジュマル。地上から多数に分岐する幹は複雑怪奇に展開し、多くの気根が垂れると共に幹にも気根が絡みつき威容を誇っている。
34	月桃農園	月桃を栽培している有機JAS認定の農園。

▲主な眺望点

No.	名称	概要
35	浜公園からの眺望	浜集落の南側半分と与勝半島への眺望が開けている。

地区景観資源めぐりマップ(比嘉区)

凡例	
◎	自然景観資源(海浜、保安林、岩島)
★	歴史文化景観資源(御嶽、拝所、村カ、まつりの道、イベントの場)
■	公共公的施設(学校、公民館、公共トイレなど)
●	便利施設(店舗、レストラン、ホテルなど)
■	木造瓦屋根(伝統的建造物)
■	石垣(あいかた積、布積、栗石積)
■	石垣(野づら積)
🌳	巨木・銘木(名称)
▲	眺望点



★歴史文化景観資源(御嶽・拝所・村ガ-・まつりの場など)

No.	名称	概要
1	ヌン殿内 (当山家)	比嘉グスクの登り口近くに所在する。ノロの神及びノロ火の神がアシャギに祀られている。ハマガ-の嶽の神は一番座の神棚に祀られている。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
2	パン殿内 (古喜屋家)	先祖がウッチ(区長のようなもの)をしていたのでパン殿内という。一番座にシルミチューの神が祀られている。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
3	エ-グチ神屋 (栄口家)	ワークガ-というソーシ御嶽の神が祀られており、ソーシ御嶽とヒエチ- (ひき合す) になっている。集落の健康祈願・家内安全祈願のために行われる十二か所めぐりの拝所のひとつ。
4	テ-ラ神屋 (平良家)	アマミチューの神が祀られている拝所。カミヤ-には2つの香炉があり、右側はシルミチューの神であるともいい、またクティングワのウタナであるともいう。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
5	吉本家 (マシムトゥンヤ-)	主屋は、明治末頃にチャ-ギを使用して建てられた貫木屋形式の平屋本瓦葺の家屋であったが2010年の火災で全焼した。屋敷構えなどは今でも沖縄の地方に残る伝統的な建築様式を色濃く残している。
6	比嘉グスク	比嘉集落の高台に位置する。グスクに上ると広場になっており、グスクの拝所には貝殻などが祀られている。ウマチ-の際にはこの貝が祀られた場所で拝みが行われる。
7	地頭代火の神	比嘉の旧公民館向いの小高いところにあり学問の神とされている。旧暦4月14日のアブシバレーの時に拝み、現在では受験生が拝むこともある。戦後すぐまではムラヒヌカンも一緒にあった。
8	火の神 (ニ-ヤ)	ムラヒヌカンと呼ばれる。以前は海の方を向き比嘉グスクを拝むような形となっていた。それ以前は旧公民館の近くにあった。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
9	アシビナー	比嘉グスクの下に位置し、ウスデークやエイサーなどが催される。
10	ノロ墓	比嘉集落の北西、ハマガ-の上方にある。内部には大きな厨子甕があり、それを小さな厨子甕が囲むように配置されている。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
11	按司墓	ハマガ-のノロ墓の上方にある洞窟。ガマの中には木製の棺がある。
12	アマミチューの墓	アマンジと呼ばれる岩島の中腹の岩陰を利用した墓。地元では沖縄を誕生させた琉球開闢伝説の祖神アマミチュー、シルミチューの男女二神及び他の神が祀られていると伝えられている。旧正月の年頭拝みなどで集落の豊饒・無病息災・子孫繁昌を祈願する。
13	ソーシ御嶽	比嘉集落から兼久へ向かう途中の海岸にある御嶽。近くにはソーシガ-もある。1970年頃の道の拡張工事によって現在の場所に移された。現在は旧暦の年頭拝みで祈願する。
14	ブ-トウイチチ	比嘉集落内にある石柱。子どもがこの石よりも高くなると村の賦役の対象となったことからブ-トウイチチと呼ばれる。高さ4尺(120cm)ほどあったが、現在は一部が埋まっている。また、この石には比嘉グスクの神様が座ったり、馬のたづなを結んだりするとも伝えられている。
15	差し石	カ比ベの石。大小2つあったが、小さいのは現在比嘉公民館内に置かれている。
16	まつりの道など	綱引きの場、ミチジュネ-の順路/ハーリーの場、ウガンバーリーの場/カミミチ(神聖な道、ガンを運ぶ時に通ってはいけない道だった)/グソーミチ(後生道はガンを運ぶ際に通る道)/ナカミチなどがある
17	タッチウイシ	3班にあり、フンシ(風水)的に比嘉集落を守る形になっているとされる。
18	ウ-グチ	平島にある。サングワチャーの際に拝みが行われる。
19	リュウグウ(竜宮)	平島にある拝所。戦後つくられた。浜比嘉の人は拝まない。
20	ハマガ- (ウブガ-)	比嘉部落のウブガ-で海岸沿いにある井泉。出産の時の産水、葬式の時の死水をくむ。十二か所めぐりの拝所のひとつ。
21	シーガ- (チンガ-)	衣服を洗濯するためのカーで暑い夜には水浴びもした。着物のことをチンということからチンガ-ともいう。今は水が涸れている。
22	ミーガ-	比嘉集落の中央にあり、かつて水が豊富で洗濯物や野菜を洗い子どもたちが水遊びをしたが現在は涸れている。井戸周りの石垣は戦後に造られた。
23	ハルガ- (ウキンジュガ-)	山の麓に位置している。水量が豊富だったため稲作のときに活用した。現在は一部の農水として利用されている。ハルガ-の近くには今でも水田の跡地とわかる蒲の植生がみられる。
24	ウィヌカー (上ヌカー)	旧比嘉小学校へ行く途中にある。旧正月の若水汲みの際、ヌンドゥンチとテ-ラだけはこのウィヌカーで若水を汲む。また、集落西側の飲み水として使ったのでイリガ-とも呼ばれる。
25	アガリガ- (東ガ-)	村の東側に位置する井泉。戦前は水が豊富だったことから生活水や洗濯の場所として使われていた。1960年ごろ井戸の周りをコンクリートで固めた。現在は旧暦の年頭拝みなどで祈願される。
26	ソーシガ-	比嘉集落と兼久集落のほぼ中間地点の小高い山の麓にある井泉。ソーシ御嶽と一対になっている。神様がシルミチューからの帰りに手足を洗ったという。十二か所めぐりの拝所のひとつ。

◆公共公的施設(学校・公民館・公園など)

No.	名称	概要
29	旧比嘉小学校	比嘉区にながらく立地していた比嘉小学校は、2012年4月に過疎化と市の学校適正配置計画により彩橋小中学校に統合廃止された。
30	比嘉公民館	現公民館は「農村環境改善センター」という施設名称になっており、5班から兼久へ抜ける道の途中に立地している。敷地内に戦没者慰霊の碑が設置されている。
31	比嘉公園	比嘉グスクのふもとに位置する公園。かつてのアシビナーでもある。トイレやベンチなどが設置されている。

○自然景観資源(海浜・保安林・岩島など)

No.	名称	概要
33	ムルク浜	比嘉集落から兼久集落にかけて連なる白砂の浜。ホテル浜比嘉リゾートのふもとにあたり、夏場は多くの海水浴客が訪れる。

▲主な眺望点

No.	名称	概要
34	比嘉グスクからの眺望	比嘉集落はもとより、平安座島、宮城島など周辺の島々への眺望が良好。
35	ホテル浜比嘉リゾートからの眺望	ムルク浜、浮原島、南浮原島など周辺の島々への眺望が良好。